

財団法人 黛民族舞踊文化財団



舞 踊 文 化
E. T. C

NO.11



目 次

中国民族舞踊と稲作文化（2） 前雲南省舞蹈家協会常務副主席 劉 金吾

二 稲作文化中の祭祀舞踊（続き）

3. ラフ族の祭谷神と飯魂舞…………… 2

4. ワ族の獵頭祭谷と木鼓舞…………… 5

5. イ族の老虎笙と大鑼笙…………… 7

自然人アイヌ

こころの歌と踊り アイヌ文化伝承者 四宅 豊次郎 …… 9

平成14年度黛民族舞踊文化財団活動予定…………… 11

中国民族舞踊と稲作文化（2）

前雲南省舞蹈家協会常務副主席
劉 金吾

二 稲作文化中の祭祀舞踊（続き）

3. ラフ族の祭谷神と飯魂舞（続き）

ラフ族のクーツォン（苦聡）人は穀物神を盛大に祭る儀式と舞踊を持つ。穀物神を祭る時、一つの小さな竹のかごを作り、縄でそのかごにふたをして母屋の梁にぶら下げる。竹かごの中にはひとにぎりのアワか米と鶏卵を二つ入れ、その上にお椀を二つ置く。一つはごはんの椀、もう一つは肉を入れる椀である。ごはんの椀は上に、肉を入れた椀は下に置く。さらに4枚の黄栗樹の葉を使い、鶏卵、3枚の銭紙、一本の香を籠の上にのせる。祭りの主祭者である祭司あるいは長老は鶏を抱え、3本の香を握って踊りながら次のように唱える。

稲神様、稲神様。
今日は龍の日です。
清々しいよい日です。

私はあなたにご飯をお供えします。
私はあなたに肉をお供えします。
私はあなたにお酒をお供えします。
私はあなたにお香をたきます。
私はあなたに紙を焼いて捧げます。

トウモロコシの種をまきました。
どうか害を与えないで
早く大きく育ててください。
苦蕎の種をまきました。
どうか害を与えないで
早く大きく育ててください。
ジャガイモを植えました。
どうか害を与えないで
早く大きく育ててください。
麦を植えました。
どうか害を与えないで
早く育ててください。
種モミをまきました。
どうか害を与えないで
早く大きく育ててください。



ラフ族の女性

植えられた豆や麦や五穀
それらすべてに害を与えずに
稲かごを満たしてください。
穀倉を満たしてください。
家中を満たしてください。
一年かかっても食べ尽くせないほどに…

家の中の子供や老人に
どうか害を与えないで
食にあぶれず快適にすごせて
無病息災に過ごせますように。

牛に害を与えないで
早く大きく育ててください。
そして田畑を耕せるように。
羊に害を与えないで
早く大きく育ててください。
囲いの中でたくさん増えて
羊の糞が田畑の肥料になるように。
豚に害を与えないで
その群れが山中を埋め尽くして
祖先の祭りや建前の時
捧げものにできるように。
鶏に害を与えないで
数えきれないほどの群れになり
招魂や鬼やらいの時役に立つように。

我が家の家人たちの
植えるものすべて、収穫するものすべて、
飼うものすべて、あるものすべてを
家人たちがよろこび楽しみ
どの民族もそしてどの時代でも
衣食にこと欠かないようにしてください。



ラフ族の鬼やらいの儀式

ラフ族は稲魂を祭る以外に毎年旧暦の二月になると吉日を選び稲魂を迎える儀式を行い、“飯魂舞”を踊る。そのときには村内の長老12人を家の中に招き入れる。12長老は輪をつくり、その中に机を一つすえてその上に茶、飯、酒瓶、香炉、豚の頭、野菜等の物をおく。長老たちはまたそれぞれに甌、漏斗、梔、ひょうたん、お椀、酒、米、肉一切れ、トウモロコシ等を持ち寄り、一人は三弦を弾き、一人は芦笙を吹き、一人は的嚙噌を吹いて机を囲んで舞う。最初は庭で踊り、次に家の中に入って踊り、その後は机を持って楼の上で踊る（楼の上とは穀物が貯蔵してある所）。この儀式の意味は、すでに稲魂が家の中に来たのだから来年は穀類は豊作で食糧は蔵に満

ちるという表現である。楼の上で踊った後、すべての飯魂舞は終了する。

一般に人と同じように稲には魂があり、魂を持たない稲は本当の稲ではないとみなされる。稲は倉にではなく倉魂に戻るのであり、もし稲に魂がついていないと本当の収穫は望めない。稲魂が倉に入ってはじめて稲は虫害やカビの害から逃れられる。同時に人々は稲魂の加護を祈った。稲魂の恩恵がなければ田地からの豊作はえられず、稲魂の加護がなければ人類は生存することもできずに安穏な生活は長続きしないと思われていた。

4. ワ族の獵頭祭谷と木鼓舞

1958年以前は雲南省の西盟や滄源等のワ族地区では人間の首を切り稲魂に捧げる原始的な習俗が残存していた。首狩りは毎年2回、3月の稲もみを蒔く前と8月の収穫時に実施された。ワ族は過去には主として山地で早稲を植え、基本的には食生活は自然界に左右され、気候、降雨、また山林中の鳥獣の食害などは収穫に影響を与える決定的な要素となっていた。稲の成長が順調であればその年の衣食は保証され、成長がおもわしくないとその年の生活は非常に困難になる。そのためただひたすら神霊の加護を願うしか方法がなかった。3月の首狩りの祭祀は神霊の加護で気候が順調になり鳥獣が穀物を荒らさずにその年が豊作になるよう祈願するものであった。8月の首狩り祭祀はすなわち神霊に感謝するものであり、それは神霊の加護があつて始めて穀物の豊作がもたらされるということによる。この二つの祭祀活動はワ族の一年を通じての最も重要なものであった。

“生け贄とされる人の血を地力の神に捧げ豊作を祈念するやり方は古代社会においては少なからず見受けられる。雲南省から出土した古代の青銅器には非常に多くの血祭りの場面が描かれて



ワ族の木鼓舞

それは原始の人々のもつ好戦的な本性を表しているのにとどまらず、更に重要なことは原始民族にとっては人血のもつエネルギーは地力が穀物を発芽させる促進剤として認識されていたことである。人の死をもつて穀物の豊作を希求するのである。一つの生の死への転化が、冬と春の交替の時に大地の旺盛な生命力がよみがえるという大きな期待を人々に伝達する”（註①）。言い伝えによると、過去にワ族が災難に遭遇したとき獣の頭を捧げて神を祭ったがなんの効果もなかった。人の首を捧げて神を祭った時のみ災難を免れて稲もよく生長したという。人の首を供えた家の稲はよく育ったといわれ、又人の首からの血や水が地面に流れ

出してはじめて稲がよく成長するといわれた。ワ族の地力の神は“スオーフ”という女神で作物の成長を掌る。スオーフは木鼓の家に住んでいてそのため毎年首狩りをして人の首を女神に供えなければならなかった。“首狩りに行く者のため村中の女子供や老人は村の入り口に集まり、首狩りの勇士を称える歌を歌った。その歌の大意は

今まさに春が来て
新しい種もみを蒔く時が来た。
でも誰が来年の
豊作を約束してくれるのか
私たちはまだ
心霊に供える人の首を持たない
若いおのこたちよ
自分たちの父母や妻子のため
勇敢に出征し狩りとった首をもちかえれ
新しい一年が豊作であるように
供物を狩ってもちかえれ……

狩りの相手を生け捕りにした時は村の中で三日の間この「生け贄」を養う。“この三日間、この男に村中で一番美しい娘を添い寝させ、夫婦の契りを結ばせる。心のやさしい老婦人が日に一度男の体を洗い、死ぬ前に更に多くの母の愛を与え、また連日酒肉の宴を開いて、同席した同年配の村の男たちにより男は兄弟の愛を味わうことになる”三日の後、村人たちは「生け贄」を村の入り口の鬼樹（一本の大青樹）の前に送り届ける。鬼樹のかたわらには地力の女神スオーフの住む木鼓の家がある。「生け贄」は縛られることなく鬼樹に頭を向け木の台の上に座る。この「獲物」は死に臨んで穏やかに次のように唱える。

ああ……
我がふるさとの親しき者よ
我らは皆“スガンリ”より出でし者なり（註②）
我が首を神霊に供えることなくして
来年、今の如き生活を営めるや！
我が村里に来年の豊作を祈り、
また、首を探し求めた
全てのワ人の来年の豊作を願って
我が首を神霊に捧げまつらん！

斬首に先立ち、村の全ての老若男女が「供物」の男のため次のように唱える。



ワ族の「水牛の生け贄」

(同年配の村の男たち) ああ、我が兄弟よ
(村の老人たち) ああ、我がむすこよ
我らの豊作と生存のため
我らは汝の首を神霊に献ぜざるを得ず
最良の米酒を汝に飲ませ
鶏肉やお粥を汝に食べさせ
村で一番美しい娘を汝に与え
汝の汗まみれの体を拭き清め
汝の口中に銀貨を入れた
願わくば汝の魂が神霊と共にあらんことを
ああ……

この歌を皆で歌った後、占い師と神主が鋭利な刀を持ち生け贄の首を切り落とす。三日間生け贄に添い寝をした娘がその首を捧げ持ち、舞い、歌いつつ首を木鼓の家に送り届ける。すべての村人たちは列をなして生け贄の首の口の中に米酒をそそぎ、歌い舞いつづけて数日を過ごす。狩られた首、あるいは生け贄が村に来てからその首が木鼓の家に供えられるまでは十日以上を要し、村中の老若男女はその間ずっと木鼓の音が響く中首迎え舞、首切り舞、首供え舞、首送り舞等を踊り続ける。それは来年の豊作を祈った真剣な行為なのである。

このような伝統的な崇拝の観念や原始信仰は実際にはワ族の経済発展を制約した。その一方では心安らかに自己を犠牲にして祭祀の人柱に立つような人間の数はそれほど多くはなかった。近代以来各部落や村落の間で続いた首狩りはしばしば部落、村落同士の血みどろな報復戦争をひき起こした。この報復は相当残酷なものとなり、一つの村の村民が全て殺されるという事態も生じた。この首狩りはワ族の歴史の悲劇であり、ワ族の社会の発展が緩慢になる一因にもなった。

1958年、政府の指導のもと、ワ族の指導者、民衆は自らすすんでこの後進的な習慣を徹底的に廃止した。

註① 周凱模著《祭舞神楽》、雲南人民出版社1992年版

註② ワ族の創生神話では人間も万物もすべて“スガンリ”という名の山の洞窟、あるいはヒョウタンから生まれたことになっている。

5. イ族の老虎笙と大鑼笙

雲南省楚雄彝族自治州の南境の双柏県法表郷には麦地冲という名のイ族の山村があり、“ロロ（羅羅）”と自称する116戸の住民がいる。彼らは毎年旧暦の正月8日から15日まで8日間にわたる老虎節（トラ祭り）を行い、老虎笙を踊る。法表郷の者柯哨には15の自然村に属する170戸あまりの自称“ニス（尼蘇）”人のイ族が住み、毎年6月24日から29日までの“たいまつ祭り”の期間中に大鑼笙を踊る。老虎笙と大鑼笙はともに古い時代のトーテム崇拝の農耕祭祀舞踊に属する。以下、それらを個別に論じていくことにする。

老虎笙

8人の身をトラににせて造形した羊毛の毛布で包み、老虎節の時舞われる踊りで、その間に厳粛な祭祀儀礼がとり行われる。先ず“虎”を選ぶ儀式が催される。正月8日の明け方、祭主は村中の男たちを連れて、羊を引き鶏を抱いて山の虎神廟に行き、そこで生け贄（羊と鶏）を殺して虎神に捧げる。そこで村の男の中から選ばれ、“虎”を演じることのできる男たちから成る“老虎隊”を編成する。選ばれた8人の男たちは頭を地面につけて神に感謝し、酒を捧げる。そして神主の用意した赤、白、黄三色の泥とかまどの鍋の灰で顔を隈取り、体にも模様を入れて黒いフェルトでつくった虎の皮をまとして虎に扮する。その後で神主が「請神経」（神おろしの経）を唱えながら一匹の牡の黒い羊を殺し、神に供え、村人たちが食べた後でその羊の皮でつくった太鼓や、ドラが打ち鳴らされる中を虎隊が村内を巡って踊り、虎舞場に入って三たび舞い、各自の家に帰って休息をとる。その晩、月が上り始めた頃に虎舞場でまた羊皮の太鼓が響き、村中の人々がすぐに集まって老虎節の盛大な式典が始まるのを待つ。この時、“羅哦得”（虎の首）と称したイ族の長老が手に2メートルほどの長さの竹竿—その先端にはひょうたんがかけてある—を持ち、広場に入り、手に持った竹竿をゆする。先端のひょうたんもゆれてその中から四方の村人たちに向かって火の灰が飛ぶ。長老は声高く次のように叫ぶ。「薬だよ、薬だ。このひょうたんの中には99種の薬が入っていて99の病を癒し99の邪気を払い99の魔物を降す。早く薬を買いなさい。牛、馬、ニワトリ、豚、羊、犬を疫病から救う薬、五穀を虫害から守り、生育させる薬だ、苦難を救い災厄から免れる薬だ。さあ買った、買った。」そう言うのと最後に“ラーマ（虎）！”と一喝する。その声が終わらない間に虎隊が首に銅の鈴をかけ、広場に入場し、中央で勇ましく純朴な虎舞を踊る。村人たちはその周りで“合脚舞”を踊り夜更けまで過ごす。この日以降、一日おきに一匹ずつの虎を加え、正月の一五日の晩には8匹の虎が入場して、祭りは最高潮に達し、荘厳な儀式の虎舞が演じられる。

虎舞の内容は一つは虎の生活を模倣した愛と生殖の舞踊、もう一つは稲の生産の全過程を模倣



イ族の虎舞（『人民中国』より）

した稲作舞踊と大きく2種類に分類される。

正月十五日には虎隊は村の一戸一戸をまわり、わざわざ崇りのお祓いをする。虎隊は庭で虎舞を踊り、山の神に扮した二人の祭司が次のように言う。

「よこしまな鬼どもはすぐに出て行け。シラクモやノミもすぐに出て行け。大吉大利は入って来い。食べ物、着る物入って来い。

金銀財宝みな入れ！今からは家中の者が元気になり、家畜は庭に満ち、五穀はよく実り……」最後に老虎隊と村中の人々が山道を踊りながら進み、祭司は《指路経》を口ずさんで虎神を送り出す。その後で村人たちは各戸に準備された食事を共に食べ、“老虎祭”の終了が告げられる。

翻訳：黛民族舞踊文化財団 藤原明人



イ族の村

自然人 アイヌ

こころの歌と踊り

アイヌ文化伝承者
四宅 豊次郎

第8回

阿寒国立公園は、北海道の中でも大雪、知床国立公園と共に、原始の姿を今もそのままにとどめている数少ない地域である。

四面の山々を見渡すと、エゾ松やトド松の針葉樹林を主体にして、檜、樺、白樺など多くの広葉樹も密生している。

豊かな森林であるから山菜や薬草もあり、動物ではエゾ鹿や熊、その他にキタキツネ、タヌキ、野ウサギなどの小動物、また鳥類も数多く棲息している一帯である。

このような恵まれた環境であるから、アイヌ民族も古い時代から住んでいた。

自然の中からはいろいろな歌や踊りも生まれる。

次に、阿寒のコタン(村)でつくられ伝わってきた「松の木の踊り」について書くことにします。

奉納舞踊 (5)

フッタレ チュイ (松の木の踊り)

huttare cuy

フッ (hup) = トド松

ウタリ (utari) = 同族、仲間

フッタレ チュイ アラ

huttare cuy ara

(トド松の仲間) (突き刺す) (下る)

フンナー フィ

hunna- huy

(上る 更に) (上る)

ー互いにかけて、くり返して歌うー

“トド松の仲間よ、自分の枝葉(髪の毛)をつき刺すごとく、上に下に、更に上に、振りなさい”(数回くり返した後に、歌声は次第に高くなり、踊りも更に激しくなる)

フククー チョイ アラ フククー

hukku- coy ara hukku-

(高く) (かけ声) (下に) (高く)

ーくり返して歌うー

“(髪の毛を) 上に下に、もっと激しく振りなさい”



エゾ松、トド松の原生林

古来からアイヌは、大自然にいだかれて共存共栄してきた民族であったから、常に注意深く自然を視る目をもっていた。

この踊りは、髪の高い女性が互いに向き合い、腰にしっかりと両手を当て、上半身を斜め前後に、また左右に折り曲げ髪の毛を振りかざして、その髪の毛の先を頭上に、次には地面に突き刺すように踊るのである。

相対する者は互いに逆の動作をする。

踊り手の身体と長い黒髪が一体となった姿が、阿寒の山々に聳え立っているトド松の木の様に見え、大嵐の日に強風に吹かれて、前後左右に揺れなびいている様子を表現しているのだ、

「松の木の踊り」と言われている。

(前にも述べたが、アイヌの歌舞には本来いちいちタイトルがないので、俗に「松の木の踊り」と解りやすく言っている)

近年の踊り娘は、髪の毛を斜め前後や左右にだけ振っているが、一昔前までの女性たちであれば、踊りが最高潮に達すると、長髪と共に上半身をグルグルと大きく振り廻して、まるで渦を巻くように激しく踊ったものである。

例えば、歌舞伎舞踊のひとつに「連獅子」というのがあり、親子の獅子が豪快華麗に長いたてがみを振りみだして舞い踊るが、その様子を想像すると理解できる。

現在の踊り娘たちに、この振付をやらせてみると、みんな目眩をおこしたり、平衡感覚をうしななって足もとがフラフラになってしまい、「これはとても無理………」と匙を投げてしまう。

昔の人は足腰が丈夫で安定性があり、上半身を捻っても難なく踊りこなしていたが、現代っ娘はどうやら鍛え方がたりないようで、体を動かす基礎的な活動力が弱い。

このように「松の木の踊り」は、激しい動作を伴うので、釧路地方では、これを別名「心臓くらべの踊り」と呼んでいる。

基礎訓練をしっかりした上に、体力と根性がなければ、この踊りには最後までついていけない。

私たちの祖先は、嵐がきて山々の樹木が大きく揺れうごく様に、きっと大きな感動を受けて、この歌舞をつくったのであろう。



松の木の踊り

アイヌの歌舞には、樹木ばかりでなく、葦などの草や、太陽、風、雲、霧、海、波など自然現象をあらわしたものが数多くある。また、熊、馬、キツネ、鯨の踊りや、カラス、ツバメ、ネズミなどの動物、その他にバッタなど昆虫の歌舞もあるので、これらについては折をみて追い追い書くことにします。



怒江峡谷（『人民中国』より）

平成14年度黨民族舞踊文化財団活動予定

平成14年 5月14日（火）黨民族舞踊文化財団総会

6月1日（土）～6月7日（金）

黨民族舞踊団訪韓

サッカーのワールドカップが日韓両国で開催されるのにあわせて
大韓民国の招請により大韓民国・水原市において日本の民族舞踊、
日本舞踊等を公演し、紹介する。

6月12日（水）～6月23日（日）

黨民族舞踊団訪中

（中国雲南省昆明市・楚雄地区・保山市・怒江州）

研究報告誌出版予定

舞踊文化 E. T. C. No. 11 発行

民族舞踊文化 No. 14 発行

編集後記

舞踊文化 E. T. C. は年二回発行予定 ※皆様からの投稿をおまちします

平成14年 5月14日 財団法人 黨民族舞踊文化財団

港区赤坂 3-10-3 電話 03-3583-3633・3606

FAX 03-3583-3639